

中国の景気を見るには

● 放眼日中



久しぶりに行った福建省で、知り合いの中国人民企業経営者に会った時、彼は開口一番「中国の景気はどう思うか？」と聞いてきた。それはこつちが聞きたい話題だよ、という言葉をぐつとのみ込み、咄嗟に「かなり資金繰りが逼迫しているのではないか」と答えた。すると彼はわが意を得たとばかりに頷きながら「なぜそう思うのか？」と畳み掛ける。

実はこの街に来る時に乗った長距離バスの中で、年配の中国人男性がずっと携帯電話で話し続けていた。中国では日本と違い、バスや地下鉄で携帯電話を使って話をしてはいけないなどというルールはなく、皆が大声で話すので、その会話は聞きたくなくても自然に耳に入ってしまうのだ。その内容とは。

「何とか返してくれないか。あれは俺の金じゃないんだ、兄貴から融

通してもらった大事な金だから、もしおまえから金が返ってこなかったら、俺はどうすればいいんだ?」。

どうやら、貸したお金の返済を催促しているようだが、初めは普通に話していた彼の声はどんどん悲壮になっていく。相手との通話はなぜか時々切れるようで、何度もかけ直し、そして切々と返済を迫っているのである。

筆者は以前、中国での債権回収の仕事を経験しており、このような泣き落としによる資金回収の現場は何度か見ている。中国の回収作業はテレビドラマでよく見る「脅し」などではなく「親しさ」で決まる。債務者はそれにより返済先を決めるが、親族は最後の砦だ。

先ほどの電話はかなり親しい、親族同士の会話だと分かり、事態は意外と深刻だ。「中国で親、兄弟、親

戚を裏切ると生きていけなくなる」という話はよく聞いた。最後に自分を守ってくれるのは身内であり、その信頼を裏切るとは身内を傷つける行為をしなければならぬのであれば、特に地方では、最終的な状況まで追い込まれていることを示している。このような会話が今、中国各地で起こっているという。

電話の相手は、自分で事業をしているようだが、最近、急落した上海株にでも手を出したのだろうか。どんだん上がっていくバブル的な相場に乗って、資金もつぎ込み、それでも足りずに督促主から借りた金も投資してしまっただろうか。こう相場が乱高下すると、一気に損失が膨らむこともあるだろう、などと聞いている方も、要らぬ妄想が膨らんでしまう。

中国の景気が減速を始めてからか



コラムニスト・アジアソウオッチャー
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

なりたつ。ブレーキを踏んでも、巨大な中国は急には止まらないし、ちようどよいところで止まるなどという芸当は残念ながら簡単にはできそうもない。

そんな中で、大手国有企業には資金が回るが、中小の民営企業には貸し手がなく、資金は皆、株や不動産へ回っていく。民営企業は圧迫され、資金繰りはどんどん厳しくなる。政府がいくら金利を下げて、中小に資金が回るようにと叫んでも、お金の動きは実に正直だ。

中国の産業構造の弱点は、優秀な中小企業が育っていないこと、と指摘する専門家は多い。ある意味で、ここに日本企業の付け入る隙があると言えるのだが、これだけ経済が、いや国が揺れていると、本当に将来が思いやられる。